

令和6年2月28日

足立区立江南中学校
校長 半村 拓哉 様

足立区立江南中学校
開かれた学校づくり協議会
会長 竹之内 茂樹

令和5年度 学校関係者評価書

1. 自己評価全般について

江南中学校は「学ぶ 鍛える 思いやる」を教育指針に掲げ、小規模校・複数担任制で教員の目が生徒に届きやすく、生徒が素直に育っているように見えます。

5月8日にコロナが5類に移行し状況が一変する中でも、生徒たちは生活の規範としての「あ・じ・み・こ・し」を意識して落ち着いた学校生活を送っていると思います。

アンケートの「大人になったときの夢や目標がある」が53.9%と気にかかります。「自分には良いところがある」も66.4%と低く、対策をたて頑張ってもらいたいところです。

学習面では、引き続き家庭学習や放課後補充教室等で学力の定着を図ってほしいです。

2. 学校から提示された「課題」や「保護者・地域への期待」について

行動制限が解除され、学校より保護者の感覚の方が回復が早いのか、アンケートの結果は昨年度までと大きく変わっています。保護者は、学校に対し、学校の取り組みや教職員の質については昨年度と変化はなく一定の評価をしています。しかし、保護者が学校に足を運ぶ機会が減ったためか「教職員に相談しやすい」が20%近く低下、短縮授業の影響か学力定着に不安を抱く保護者も増えているようです。保護者の不安を払拭できるよう努めてほしいです。

また、学習面においても、生活面においても、学校と保護者・地域とが力を合わせなければ、学校が掲げる教育目標を達成することはできません。保護者・地域がさらに学校への関心を高め、共に生徒の育成に連携していくために細やかな情報発信を続けてほしいです。

チャイルドタウンフェスティバルや宮城・氷川神社例大祭・防災体験等、地域行事のボランティア活動へ参加が見られ、生徒は自分から積極的に動いてくれています。地域としても感謝しています。今後も参加を促してほしいところです。

3. その他

来年度は、一気に学校活動も地域の活動も活発化することが予想されます。生徒たちのために、より一層の地域と保護者との連携を意識した学校運営を期待しています。